

■トンネル台帳 トンネル諸元、非常用施設諸元 【様式A-1】

										施設ID									
フリガナ 名称				路線名				管理者名				緊急輸送道路							
所在地		自	至	作成者				作成年月日				トンネル延長	L=	m					
										トンネルの分類									
起点	緯度			完成年月日		舗装	種別			施設の内訳		種別・方式	型式	個数	更新年度				
	経度			供用年月日			厚さ			通話型通報設備									
終点	緯度			トンネル区分			面積			操作型通報設備									
	経度			内装種類			更新年次			自動通報設備									
一般有料区分				天井板種類		排水	種別		トンネル非常用施設	施設の内訳		種別・方式	型式	個数	更新年度				
土かぶり		m		坑門	起点	形式	更新年次			非常警報設備									
内空断面積		m ²			延長		施設	種別・方式		通話型通報設備									
交通量		台/日			終点		個数			操作型通報設備									
幅員	道路幅	m		竣工巻厚	アーチ	cm	更新年次			自動通報設備									
	車道幅	m			側壁	cm	施設の内訳			非常警報設備									
	歩道等幅	m			インバート	cm	通話型通報設備			通話型通報設備									
高さ	建築限界高	m			アーチ	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
	中央高	m			側壁	cm	自動通報設備			自動通報設備									
	有効高	m			インバート	cm	非常警報設備			非常警報設備									
線形	縦断勾配			半径	アーチ	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
	直線区間長				側壁	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
	曲線区間	区間長			インバート	cm	自動通報設備			自動通報設備									
	起点側クロソイド				アーチ	cm	非常警報設備			非常警報設備									
	曲線半径				側壁	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
トンネル工法				占用物件	インバート	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					アーチ	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					側壁	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					インバート	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					アーチ	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					側壁	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					インバート	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					アーチ	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					側壁	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					インバート	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					アーチ	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					側壁	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					インバート	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					アーチ	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					側壁	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					インバート	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					アーチ	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					側壁	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					インバート	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					アーチ	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					側壁	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					インバート	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					アーチ	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					側壁	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					インバート	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					アーチ	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					側壁	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					インバート	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					アーチ	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					側壁	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					インバート	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					アーチ	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					側壁	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					インバート	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					アーチ	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					側壁	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					インバート	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					アーチ	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					側壁	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					インバート	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					アーチ	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					側壁	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					インバート	cm	非常警報設備			非常警報設備									
					アーチ	cm	施設の内訳			通話型通報設備									
					側壁	cm	操作型通報設備			操作型通報設備									
					インバート	cm	自動通報設備			自動通報設備									
					アーチ	cm	非常警報設備			非常警報設備									

■トンネル台帳 トンネル情報一覧表 【様式A-2】

※ 行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■トンネル台帳 トンネル記録（位置図、断面図、施工実績他）【様式A-3】

フリガナ 名 称		路線名 管理者名	作成者		作成年月日	
位置図・現況写真・標準断面図・地質縦断図・施工実績						

■定期点検記録様式 トンネル変状・異常箇所写真位置図 【様式B】

						定期点検年月日				施設ID				
フリガナ 名 称	路線名		管理者名	定期点検実施者			起点	緯度	施設ID					
								経度						
所在地	自	トンネル工法			トンネル延長	L= m	自専道 or 一般道	代替路の有無			終点	緯度		
	至	建設年度			幅員	L= m <th></th> <th>緊急輸送道路</th> <th colspan="2"></th> <th>経度</th>			緊急輸送道路			経度		
トンネル毎 の健全性の 診断の区分	変状・異常 箇所数合計	トンネル本 体工	材質劣化	II		III		IV		附属物等 の取付状態	○ (応急措置後)			
漏水			II		III		IV		×					
外力			II		III		IV							
トンネル 変状・異常 箇所写 真位置 図														
写真番号の記載例 本体工の変状 : 写真-【覆エスパン番号】-【変状番号】 附属物等の異常 : 写真-【覆エスパン番号】-【異常番号】			注1 : 本位置図は、見下した状態で記載すること。 注2 : 覆エスパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチの横断目地毎)に設定すること。			注3 : 写真番号に付する変状番号は、各覆エスパンの変状に対して新たに確認された場合は順次追加していくこと。 注4 : 横断目地の変状は前の覆エスパン番号で計上すること。 注5 : 1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。								

※1 トンネル本体工の変状数は、材質劣化、漏水に起因するものは変状単位で、外力に起因するものはスパン単位で計上すること。

※2 トンネル本体工の変状に対しては、措置の必要性(II~IV)について表記すること。また、点検前に実施された措置によりIと判定された箇所についても記載すること。

※3 附属物等の取付状態の○欄については、応急措置前に判定区分×とした箇所のうち応急措置により○判定とした箇所の数を記入すること。

※4 附属物等の異常番号は、本体工と番号が重複しないよう101番以降とする等の配慮を行い、分かりやすく記録すること。

■定期点検記録様式 金スパン定期点検結果総括表（トンネル本体工）【様式C-1-1】

※ 対策区分（応急措置後）のⅡb～Ⅳについて記入すること。また、点検前に実施された措置によりIと判定された変状も記入すること。

※ 应急措置を実施しないで判定した変状の対策区分は、対策区分の应急措置後の欄に記入すること。

※ 変状の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。

※ 1区間の覆工に複数の変状がある場合は、変状箇所毎に記入すること。

※措置：監視卓検を行った場合には、措置履歴、特記事項に記録を残すこと。（実施年度も記載）

※ 行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式 定期点検結果総括表（トンネル内附属物等の取付状態）【様式C-1-2】

※ 異常判定区分×について記入すること。また、応急措置により○と判定された箇所も記入すること。

※ 応急措置を実施しないで判定した箇所の異常判定区分は、異常判定区分の応急措置後の欄に記入すること。

※ 異常の除去が不完全で、緊急対応が必要な場合は対応方針欄に記入すること。

※ 1スパンの覆工に複数の異常がある場合は、異常箇所毎に記入すること。

※ 行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式 状態の把握の内容 【様式C-2】

フリガナ 名称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日				
状態の把握の内容	覆工スパン番号	変状番号	状態の把握の内容							
		年月日	内容	結果			対策区分の判定			

注) 状態の把握において、微破壊・非破壊検査や各種試験等を実施した場合について記載する。

※ 行が不足する場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式 変状写真台帳【様式D-1-1】

フリガナ 名称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	施設ID
写真番号	覆工スパン番号	管理者名					
変状部位	対象箇所			写真番号	覆工スパン番号		
	部位区分				変状番号		
変状種類				変状部位	対象箇所		
					部位区分		
対策区分	変状区分				変状種類		
	応急措置前			対策区分	変状区分		
	応急措置後				応急措置前		
	応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況(実施日)		対策履歴		実施状況(実施日)	
メモ				メモ			
写真番号	覆工スパン番号			写真番号	覆工スパン番号		
	変状番号				変状番号		
変状部位	対象箇所			変状部位	対象箇所		
	部位区分				部位区分		
変状種類					変状種類		
対策区分	変状区分			対策区分	変状区分		
	応急措置前				応急措置前		
	応急措置後				応急措置後		
変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模		変状の発生範囲及び規模		前回変状の発生範囲及び規模	
対策履歴		実施状況(実施日)		対策履歴		実施状況(実施日)	
メモ				メモ			

※ 応急措置後の対策区分について添付すること。また、点検前に実施された措置によりIと判定された箇所も添付すること。

※ たたき落としを実施した場合は、実施後の写真を添付すること。

※ 附属物の取付状態に関する異常写真は別途、任意の書式でとりまとめるこ

※ 変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積をいう。

※ 応急措置を実施しないで決定した変状の対策区分は、対策区分の応急措置後の欄に記入すること。

※ 変状の発生範囲の規模は、面積・寸法を記載すること。(ひび割れ幅のみmmとし、その他をm表記とする)

※ 構造用鋼材以外の異物に伴うとき・はく離については、メモ欄に異物の概要を記入すること。

■定期点検記録様式 異常写真台帳（トンネル内附属物等の取付状態）【様式D-1-2】

フリガナ 名 称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所				対象箇所			
部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類	
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所				対象箇所			
部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類	
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	
覆工スパン番号		異常番号		覆工スパン番号		異常番号	
対象箇所				対象箇所			
部位区分		異常の種類		部位区分		異常の種類	
異常判定区分		メモ		異常判定区分		メモ	

※ 異常判定区分×について記入すること。また、応急措置前に異常判定区分×とした箇所のうち応急措置により○と判定した箇所も記入すること。

※ 応急措置を実施した場合は、その実施状況が分かる写真を添付すること。

※ 変状数に準じてシートを追加すること。

■定期点検記録様式 トンネル全体変状展開図【様式D-2-1】

フリガナ 名 称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

トンネル全体変状展開図

トンネル
変状
展開
図

- 注1:本展開図は、見下げる状態で記載すること。
注2:覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチ
の横断目地毎)に設定すること。
注3:横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。
注4:1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。

■定期点検記録様式 トンネル全体変状展開図(機器の活用時)【様式D-2-1'】

フリガナ 名 称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					
トンネル 変状 展開 図	トンネル全体変状展開図						
	<p>注1:本展開図は、見下された状態で記載すること。 注2:覆工スパン番号は横断目地毎(矢板工法の場合は上半アーチ の横断目地毎)に設定すること。 注3:横断目地の変状は前の覆工スパン番号で計上すること。 注4:1枚に収まらない場合は、複数枚に分けて作成すること。</p>						

■定期点検記録様式 覆工スパン別変状詳細展開図 【様式D-3】

フリガナ 名 称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日							
		管理者名											
【健全性判定集計表】													
変状番号	対象箇所	部位区分	変状区分	変状種類	前回定期点検時の判定	応急措置前の判定	対策区分毎の変状の有無	対策区分毎の変状の発生範囲の規模(㎡)	備考 ^{注2}				
							外力 ^{注1}	材質劣化 ^{注1}	漏水 ^{注1}				
IV	III	IIa	IIb	IV	III	IIa	IIb	IV	III	IIa	IIb		
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
9													
10													
11													
12													
13													
14													
15													
16													
17													
18													
19													
20													
21													
22													
23													
24													
変状の発生規模合計(㎡)								—					
集計判定診断	対策区分の判定結果		対策区分毎の変状数 ^{注3}		IV	III	IIa	IIb	IV	III	IIa	IIb	覆工スパン単位の健全性の診断の区分
所見													

注1：誤記入防止のため、当該変状区分以外のセルは灰色表示とすること。

注2：応急措置を実施した場合は、その詳細を備考に記載すること。

注3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため変状の有無の欄には面積でなく○を記入し、備考欄に状況を記入）。

(以下、印刷不要)

※1：本シートは作成済みのないよう、変状が無くても全スパン分を作成すること。また変状展開図は、様式D-2-1、様式D-2-1'と同じものを覆工スパン単位で拡大し掲載すること。

※2：変状番号は、様式D-1-1で記入した番号と整合させること。

※3：対策区分毎の変状発生規模は、様式D-1-1に記載した面積を記入すること（ただし外力はスパン単位で評価するため変状の有無の欄には面積でなく○を記入し、備考欄に状況を記入）。

※4：本様式は覆工スパン毎に作成すること。

※5：変状数が多い場合は、適時、表の行を増やして覆工スパン毎に1枚のシートに収めること。また、1スパン1シートとし、スパンに合わせてシートを追加すること。

※6：対策区分毎の変状の発生範囲の規模とは、対策を行う際に参考となる変状の長さや面積であり、変状を包含する長さや面積とする。

※7：対策範囲を示す発生範囲の規模を面積で記入することが妥当ではない変状は、発生範囲の規模の欄に○を記入するとともに、備考に内容を記入すること。

■定期点検記録様式 近接目視による状態の把握が不可能な箇所 [様式E]

注) 近接自視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。

※ 数が多い場合は、適時、表の行を増やすこと。

■定期点検記録様式 覆工スパン毎の変状数・変状規模の集計 【様式F】

注1：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい対策区分の判定の区分欄にのみスパン数1を、材質劣化、漏水はそれぞれの対策区分に変状数を記入すること。

注2：外力は覆工スパン単位で診断するため、覆工スパンの中で最も評価の厳しい対策区分の判定の区分欄にのみスパン長を記入すること。

※1：本様式は様式D-3の集計結果を掲載すること。

※2：覆えスパン数が多い場合は、適時、表の行を増やしてトンネル毎に1枚のシートに収めること。

※3：本様式の集計結果に基づいて、様式Bのトンネル本体工における変状区分毎の対策区分の箇所を記載する。

■定期点検記録様式 健全性の診断の区分に関する所見【様式G】

フリガナ 名 称		路線名		定期点検実施者		定期点検年月日	
		管理者名					

道路トンネルの健全性の診断の区分の所見